

— 令和7年度 —

沖縄物流デジタル 技術活用推進事業

事例集

I



補助金

II



計画策定支援

III



情報提供

御社の実情に沿った「物流のデジタル化」をサポート

沖縄物流デジタル技術活用推進事業

事業目的

物流効率化・迅速化を目的としたデジタル化推進のため、AIやIoT等のIT技術を活用したデジタル化の取組を行う沖縄県内に事業所を有する中小企業事業者等に対して、導入計画の策定支援や、設備導入等に要する経費の一部を助成することで、労働生産性を向上させることを目指します。

《支援対象者》



沖縄県内に事業所を有し、陸海空運での輸配送業務、倉庫での保管・荷役・流通加工業務等を行う物流・小売・卸事業者等の中小企業事業者(みなし大企業を除く)

支援内容

お悩み /



デジタル化して業務改善したい



I 補助金

【補助上限額】 **4,000万円**

【補助率】 補助対象経費の 2/3 以内

補助対象経費	物品費 / 運送費 / 消耗品費 / 使用料 謝金 / 委託・外注費
--------	---------------------------------------

お悩み /



デジタル化したいけど、何から手をつけていいか...



II 計画策定支援

物流・IT コンサルタントを派遣して、企業の実状に沿った物流デジタル技術導入計画を策定します。

【費用】 **無料** 【派遣回数】 4 回程度

お悩み /



ウチに合ったソリューションって...



III 情報提供

セミナー等のイベント開催を通して、設備導入の事例、物流機器の情報、物流業界のトレンド等を紹介します。

I 補助金

公募対象要件

【補助上限額】 **4,000万円**

【補助率】 補助対象経費の 2/3 以内

- ① 沖縄県内に事業所を有する物流事業者、小売事業者、卸事業者等の中小企業事業者(みなし大企業を除く)であること。
- ② 複数の法人が共同して事業を行う場合については、いずれかを代表法人とし、当該法人が応募すること。また、代表法人は、物流事業者、小売事業者、卸事業者等のいずれかであること。
- ③ 事業の実施場所が沖縄県内であること。(導入するソリューション・機器等の利用場所が沖縄県内であること。)
- ④ 物流のデジタル化や機械化により、物流効率化及び迅速化が図られ、労働生産性が向上する内容であること。
- ⑤ 事業実施3年後の労働生産性を4.5%以上向上させることを目指す取り組みであること。

● 倉庫作業改善

- ✓ 効率よく仕分けしたい
- ✓ 棚卸の時間を減らしたい
- ✓ ピッキングのミスが減らしたい

● 配送業務改善

- ✓ 配送ルートを効率化したい
- ✓ 配送車両を管理したい
- ✓ ドライバーの負担軽減したい

● 経営分析改善

- ✓ 棚卸誤差を解消したい
- ✓ 手書き入力をなくしたい

補助対象経費

補助対象経費	内容
物品費	デジタル化に資するソフトウェア等補助事業の実施に必要なソリューション・機器の購入に要する経費
運送費	機器等の導入時にかかる輸送費等に要する経費
消耗品費	部品や梱包資材等に要する経費
使用料	設備導入に必要なサブスクリプション、クラウド等の使用に要する経費
謝金	コンサルタント等から指導を受けた際の謝金に要する経費
委託・外注費	補助事業の実施に必要なソリューション・機器の開発等、補助事業者が直接実施することができないものについて、他の事業者へ委託・外注するために要する経費

年間スケジュール



★ デジタルソリューション納入・検収後、デジタル化で効率性がアップするかどうか検証いただきます。

○ 公募期間に限らず、通年で相談対応を行っていますので、ご興味のある方はお問い合わせください。

II 計画策定支援 / III 情報提供

デジタル化したいけど、何から手をつけていいか…という事業者向けに



II 計画策定支援

デジタル化したいけど、何から手をつけていいか解らない... 沖縄物流デジタル技術活用推進事業費補助金

費用は無料です

物流・ITコンサルタントを派遣して、事業者の実状に沿った物流デジタル技術導入計画を策定します。

1. 事務局へ相談、申込
2. 業種/要望に応じて専門家を選定し派遣
3. 専門家によるヒアリング
4. 導入計画作成

お問い合わせ先
公益財団法人 沖縄県産業振興公社
沖縄物流デジタル技術活用推進事業 田島、新里、平島
TEL:098-859-6239 E-mail:logidigi@okinawa-ric.or.jp

物流・ITコンサルタントを無料で派遣して、企業の実状に沿った物流デジタル技術導入計画を策定します。
【費用】無料 【派遣回数】4回程度

支援プロセス



主な支援テーマ

- ✓ 現場の「お困りポイント」について、定量的に把握できるようにしたい
- ✓ 現場に合ったソリューションについて導入プロセスを明確にしたい

物流に関する最新情報を知りたい…という事業者向けに



III 情報提供

沖縄物流デジタル技術活用推進事業

導入事例紹介 & 現場見学会

参加費無料 お申し込み

【申込所】9/22(土)12時

9月17日 14:00-18:15 会場：30号

9月18日 13:00-17:15 会場：15号

物流デジタル化へのヒントを学びたいですか？

「導入事例紹介」では、実際の現場での事例を紹介し、物流デジタル化のメリットや課題について、質疑応答やディスカッションを通じて、導入の準備や課題の解決策について、具体的なアドバイスを提供します。

7月20日の開催の様子

販売管理システム
パレタイズロボット
ピッキングカー
コードリーダー
6軸カート自動積み上げ装置

お問い合わせ先
公益財団法人 沖縄県産業振興公社
沖縄物流デジタル技術活用推進事業
TEL:098-859-6239 E-mail:logidigi@okinawa-ric.or.jp

展示会やセミナーイベント等の開催を通して、設備導入の事例、物流機器の情報、物流業界のトレンド等を紹介します。

主な情報提供内容

- ✓ 「制度変更への対応」など、現場担当者にも関心が高いテーマのセミナー開催
- ✓ 補助金採択企業等による改善事例の報告



※物流デジタル・効率化展2025の様子

事例紹介 CASE 01

株式会社 ホクガン

沖縄由来の食品製品の開発・製造する事業をはじめ、健康食品や冷凍食品等の販売、コンビニ商品のサポートや物流により、県内及び県外へも琉球料理の発信を行っています。

冷凍保管解凍後に出荷商品賞味期限ラベルを自動印字貼付するロボットの導入

① 背景 (課題)

大量受注・超短納期に伴う、受注確定前ラベル先行貼付準備の常態化 予測先行の作業が招く、人件費の膨張と廃棄ロスの発生

コンビニからの受注は引き渡し時間が100分後と短く、大量注文時は受注確定前に増員してラベル貼付を準備。冷蔵品は解凍時から賞味期限が生じるため、実際の受注数との乖離が廃棄ロスになっていた。

課題① 出荷予測による余剰商品の廃棄 >>> 見えない損失料① 391千円/年

課題② 業務開始前ラベル確認準備作業 >>> 見えない損失料② 972千円/年

課題③ ラベル貼付作業にかかる人件費 >>> 見えない損失料③ 7,574千円/年

課題④ 実発注と貼付処理品の検品作業 >>> 見えない損失料④ 1,323千円/年

課題⑤ 大量受注に伴う新規受注の損失 >>> 見えない損失料⑤ 3,832千円/年

上記の各課題について、「ロス・ミス・ムダ」により生じた余分な費用を「見えない損失料」として年額換算値で算出。

見えない損失料の合計
14,092千円/年

② 導入技術

【ラベル自動印字貼付け機器】の導入

3Dカメラで商品の形状・向きを瞬時に判別し、不揃いな商品でも最大60枚/分で高速・正確にラベル貼付を行うことができます。また、-80℃までの結露面に対応する「アクアサーマルラベル」により、冷凍製品への直接貼付も可能になりました。自動化による受注確定後の高速処理が、出荷予測に伴う過剰生産を防ぎ、余剰商品の廃棄ロスも大幅に抑制します。



③ テスト稼働の状況



商品の形、大きさ、素材により、貼付け時間や押し込み具合の調整に時間を要したが、適正条件を見出しました。

採択企業の担当者からのコメント

これまでは「冷凍食品-18℃以下の商品」を扱う指先の冷えと、「庫内3℃の仕分けエリア」での作業時間が負担でしたが、導入後は商品に触れる機会と低温下での作業時間が共に削減され、現場の負担を大幅に軽減することができ、結果として定着率の向上にも繋がっています。

設備導入に要した経費

32,989千円

回収にかかる見込み

2.34年

※【設備導入に要した経費】÷【見えない損失料の合計(年額)】から、回収見込み年数を算出しています。

有限会社 沖縄ペットケア

沖縄県内唯一のペット用品専門の卸売業者として、自社一貫体制で県内大手総合スーパーをはじめ、動物病院や個人商店など多岐にわたる業態に商品を卸しています。

新型ハンディターミナル (HT) への切替えと受発注システムの自動化による業務効率化

① 背景 (課題)

出荷集中日の物量増に伴う、3倍 (30名) 体制での出荷対応 旧端末と現行システムの煩雑なフローにより、余分な人件費が発生

約5千点の商材を扱う中、旧端末スペックの限界や現行システムの煩雑なフローにより、作業効率が低下している。出荷集中日には通常の3倍の30名を要しており、現場の負荷軽減と作業改善が急務となっていた。

課題① 端末の仕様限界と人件費の増大 >>> 見えない損失料① 5,175千円/年

課題② 非効率な発注が招く業務停滞 >>> 見えない損失料② 622千円/年

課題③ サーバー運用負荷と災害時リスク >>> 見えない損失料③ 3,931千円/年

上記の各課題について、「ロス・ミス・ムダ」により生じた余分な費用を「見えない損失料」として年額換算値で算出。

見えない
損失料の合計
9,728千円/年

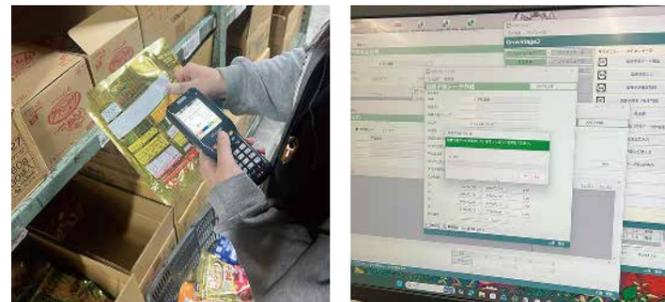


② 導入技術

【HT+受発注システム】の刷新

高スペックCPUとオートフォーカス搭載カメラで、ビニール越しの難読コードも高速スキャンし、現場の作業効率を向上させます。さらに、出荷実績の集計や在庫予測、伝票作成等の発注業務を新システムにより自動化することで、手入力や確認の手間を排除し、ミス防止と発注業務時間の大幅削減を実現します。

③ テスト稼働の状況



テスト稼働時にスキャン速度やHTの動作、文字の視認性を調整したことで、従業員が迷わず操作できるようになりました。以前に比べ、格段にユーザビリティが向上しました。

採択企業の担当者からのコメント

補助金申請の過程で抱えている課題や設備導入の目的が明確になり、自己資金のみで導入するよりも良い結果が得られたと感じています。申請書類の作成は大変ですが、それ以上のメリットがあると思いますので、次回の設備導入の際も活用できたらと考えております。

設備導入に
要した経費

37,876千円



回収にかかる
見込み

3.89年

※【設備導入に要した経費】÷【見えない損失料の合計(年額)】から、回収見込み年数を算出しています。

拓南製作所 株式会社

鐵構・防錆・棒鋼線材の3事業の総力と創意を駆使し、建設分野の多様なニーズに対応しています。鋼材加工を通じて沖縄とともに成長・発展し、地域の基盤を支えています。

溶融亜鉛めっき加工業務フローの効率化

① 背景 (課題)

目視探索・荷札交換・手入力の連鎖による稼働率の低下 非効率な業務フローが生み出す不要なコスト

鋼材の保管場所が管理されておらず、目視で探す状況が常態化。また工程毎の荷札交換や手入力による転記ミスと指示書作成が負担となり、稼働率低下と品質リスクを招く要因となっていた。

課題① 製品探索による非稼働時間の増大 >>> 見えない損失料① 2,246千円/年

課題② 重複する荷札交換に伴うコスト >>> 見えない損失料② 336千円/年

課題③ 転記ミスと指示作成による損失 >>> 見えない損失料③ 3,004千円/年

上記の各課題について、「ロス・ミス・ムダ」により生じた余分な費用を「見えない損失料」として年額換算値で算出。

見えない
損失料の合計
5,586千円/年

② 導入技術

【管理システム+ラベルプリンタ】の導入

各工程の情報を一元管理するシステムと、めっき加工にも対応可能なラベルプリンタを導入。塩酸処理や約450℃の高温でも消失しない耐熱ラベルにより、荷札交換の手間を解消することができ、全工程のリアルタイム管理と探索時間の削減、転記ミスの防止で生産性と品質を向上させます。



【SATO ラベルプリンター + 耐熱ラベル】

③ テスト稼働の状況



慣れない二次元コードの読み込みや、入力操作を教育しながら習熟度を高め効率化に取り組んでいます。

採択企業の担当者からのコメント

システムの導入により、鋼材の目視探索や荷札貼り替え時の目視照合作業、手入力の煩雑さ、そして業務の属人化といった課題から解放されました。また、社員からも「ようやくデジタル化の仲間入りができた」と喜びの声が上がっており、今後は水平展開を通じて、社内での改善の機運をさらに盛り上げていけるよう取り組んでまいります。

設備導入に
要した経費

25,710千円



回収にかかる
見込み

4.60年

※【設備導入に要した経費】÷【見えない損失料の合計(年額)】から、回収見込み年数を算出しています。

沖縄製粉 株式会社

小麦粉や伝統食の提供を通じ、沖縄の食文化の継承と発展に寄与する企業です。安全・安心で美味しい商品を提供し、健康長寿社会の実現と地域貢献を目指します。

ミックス粉出荷搬送・パレタイズ工程の効率化及び迅速化の為にロボット導入

① 背景 (課題)

25kgの重筋作業による人件費の増加 アナログな手作業が招く出荷サイクルの停滞

スペース不足で機械化できず、1袋25kgの手積作業と年1,500時間の残業が常態化しており、他部署応援を含めた3名体制でも、月間出荷目標の約8割しか達成できていなかった。

- 課題① 重筋作業の応援による人件費 >>> 見えない損失料① 1,622千円/年
- 課題② 手作業の長時間化で残業増大 >>> 見えない損失料② 2,947千円/年
- 課題③ 目標出荷量未達成による損失 >>> 見えない損失料③ 12,000千円/年
- 課題④ 応援による他部署の生産低下 >>> 見えない損失料④ 3,244千円/年

見えない
損失料の合計
19,813千円/年

上記の各課題について、「ロス・ミス・ムダ」により生じた余分な費用を「見えない損失料」として年額換算値で算出。

② 導入技術

【ミックス工程搬送ロボットシステム】の導入

50kg可搬の産業ロボットは、袋・箱共用の吸着ハンドが特長で操作の簡易化とデータ自動記録も備え、限られたスペースでも安全センサーにより安定稼働を実現します。
導入により重筋手作業が自動化され、慢性的な残業の削減と出荷目標の着実な達成が可能となりました。



③ テスト稼働の状況



出荷搬送およびパレタイズ工程の自動化により、労務負担の軽減を達成することができ、物流の自動化により現場がよりデジタル化の意義を感じ、日々の意識改革に繋がっています。

採択企業の担当者からのコメント

単に搬送ロボットを導入し自動化しても、取り扱う作業員の意識が変わらなければ、目標とする成果は得られません。弊社では設計段階から現場と打合せを重ねる事で意識改革を行い、導入しました。現在は、工程・作業単位でロボット設備がうまく稼働するように、現場から気づきや改善点が上がりました。

設備導入に
要した経費

61,500千円



回収にかかる
見込み

3.10年

※【設備導入に要した経費】÷【見えない損失料の合計(年額)】から、回収見込み年数を算出しています。

琉球物流 株式会社

1950年創業の歴史ある総合物流企業として海運・陸運・国際輸送など多角的なサービスを展開し、「迅速・安全・確実」をモットーに高品質なサービスを提供しています。

店別・カテゴリ別ピース自動仕分けシステムの導入

① 背景 (課題)

手作業による仕分け能力と作業スペースの限界 1日2.6万ピースの増量計画に向けた体制構築が急務

1日約8千ピースの商品仕分けを5名4時間の手作業で行っていたが、今後、物量を約3.3倍に増加する計画があり、現状の体制では、指定時間内の作業完了に向けた人員と作業スペースの確保が困難となっていた。

- 課題① 増員5名に伴う人件費の増大 >>> 見えない損失料① 19,801千円/年
- 課題② 車両増便による他業務への圧迫 >>> 見えない損失料② 4,320千円/年
- 課題③ 外部倉庫借用によるコスト増 >>> 見えない損失料③ 16,513千円/年

見えない
損失料の合計
40,634千円/年

上記の各課題について、「ロス・ミス・ムダ」により生じた余分な費用を「見えない損失料」として年額換算値で算出。

② 導入技術

【自動仕分けシステム】の導入

自動仕分けシステム「リニソートS-C∞」は、リニアモーターによる静音・省エネな非接触駆動と、毎時最大4,000個の高い仕分け能力が特徴です。
省スペース設計により限られた場所で物量増に対応でき、人件費の抑制や外部倉庫不要によるコスト削減を強力に後押しします。



③ テスト稼働の状況



作業者の操作習熟が進むにつれて作業効率が向上しており、今後の物量拡大にも対応可能な体制構築を継続的に進めている。

採択企業の担当者からのコメント

手作業での業務に限界を感じ、現場の将来に不安を抱えていた中、物量拡大を見据えた設備導入は大きな挑戦でした。導入後は生産性が飛躍的に向上しており、働く一人ひとりが安心して力を発揮できる環境づくりと、持続可能な職場の実現に向けて、これからも取り組んでいきます。

設備導入に
要した経費

58,300千円



回収にかかる
見込み

1.43年

※【設備導入に要した経費】÷【見えない損失料の合計(年額)】から、回収見込み年数を算出しています。

株式会社 琉球通運航空

沖縄を拠点に航空・陸上・海上・国際物流を網羅する総合物流企業です。「迅速・安全・安定」な輸送と最適なソリューションを提供します。

AI-OCRとバーコード読み取りを組み合わせた航空貨物の配送業務効率化

① 背景 (課題)

膨大な紙伝票処理による、応援増員の常態化 配送業務デジタル化の遅れに伴う、誤配・遅延・コストの増大

県内生鮮貨物の発送や混載貨物の受配を一貫して担っているが、全工程が紙伝票前提の運用。荷受けから事務処理まで全て目視と手入力に頼っており、業務のデジタル化が急務となっていた。

- 課題① 伝票処理の属人化と人件費増 >>> 見えない損失料① 10,500千円/年
- 課題② ミスが招く車両待機の常態化 >>> 見えない損失料② 780千円/年
- 課題③ 誤配・再配達による対応コスト >>> 見えない損失料③ 300千円/年
- 課題④ 手入力による請求業務の負担 >>> 見えない損失料④ 720千円/年

見えない
損失料の合計
12,300千円/年

上記の各課題について、「ロス・ミス・ムダ」により生じた余分な費用を「見えない損失料」として年額換算値で算出。

② 導入技術

【統一伝票管理システム】の導入

AI-OCRとバーコード読み取りを連携させた統一伝票管理システムにより、紙伝票のデータ化から仕分け、CSV出力までを自動化することで、手入力や目視確認が不要となり、事務負担の軽減と誤配防止、車両待機の解消など、物流業務の効率化を図ります。



③ テスト稼働の状況



AI-OCR導入により、伝票をスキャンすることで各種仕分けの作業が自動計算され、作業効率が大幅に改善。また、トレーサビリティ機能（追跡可能性）の付与で、サービスも向上しました。

採択企業の担当者からのコメント

紙伝票の情報を手入力することによる属人化やミスが解消され、作業効率が大幅に向上しました。一方で、手書き伝票の読み取りが困難なケースもあり、伝票の統一やデータ共有といった新たな課題も残っています。今後はこれらを改善し、新たな取引先の開拓にも繋げていきたいと思っています。

設備導入に要した経費

24,210千円



回収にかかる見込み

1.97年

※【設備導入に要した経費】÷【見えない損失料の合計(年額)】から、回収見込み年数を算出しています。

株式会社 野高商会

やえせミートセンターは、「フレッシュプラザユニオン・ユニオンスカラ」の精肉売り場で、消費者に販売する商材を取り扱う加工・物流センターです。

やえせミートセンターへのデジタル管理システムの導入

① 背景 (課題)

発注・在庫データ未連携から発生する不明瞭な在庫管理 検品・棚卸等のアナログ工程によるムリ・ムダ・ムラ

各店舗の発注データとセンター内の機器が未連携で、手作業によるミスや工程増が発生していた。また発注や収支管理もアナログで属人化しており、業務の非効率とロス把握の遅れが課題となっていた。

- 課題① データ未連携による帳票作成の負担 >>> 見えない損失料① 390千円/年
- 課題② 手入力のミスによる貼替作業が発生 >>> 見えない損失料② 1,733千円/年
- 課題③ 機器の処理能力が低く、工程が増加 >>> 見えない損失料③ 878千円/年
- 課題④ 検品が未デジタル化で収支把握不能 >>> 見えない損失料④ 2,904千円/年
- 課題⑤ 勘と経験に頼る属人的な発注業務 >>> 見えない損失料⑤ 2,343千円/年
- 課題⑥ 連携不足による仕分け作業の停滞 >>> 見えない損失料⑥ 2,187千円/年
- 課題⑦ 棚卸がアナログで作業時間が増加 >>> 見えない損失料⑦ 256千円/年
- 課題⑧ 予約発注不可と属人化による残業 >>> 見えない損失料⑧ 7,811千円/年

見えない
損失料の合計
18,502千円/年

上記の各課題について、「ロス・ミス・ムダ」により生じた余分な費用を「見えない損失料」として年額換算値で算出。

② 導入技術

【デジタル管理システム+HT】の導入

各店舗の「週間発注」とセンター内の「原料管理」をシステムで連動。過去データや天気を参照した予約発注から加工指示までを自動化し、ハンディターミナル検品による入荷から出荷の一貫管理を可能にしました。正確な理論在庫の把握で実地棚卸の手間を解消し、転記ミスやデスクワークを削減して劇的な業務効率化と精度向上を実現しました。



③ テスト稼働の状況



テスト検証を通じ、マスター未登録商品の整理を徹底したことで、殆どの原料をHTに登録することができました。また、管理システムの起動・入力手順を確認しながら習熟度を高めました。

採択企業の担当者からのコメント

これまでアナログ作業の属人化により供給体制に限界を感じていましたが、システム導入後は発注から出荷までの工程が連携され、オペレーション効率が劇的に向上しました。デジタル化により、収支の見える化とデータ管理も実現し、センター全体の底上げを実感しています。今後もさらなる成長を目指します。

設備導入に要した経費

45,960千円



回収にかかる見込み

2.48年

※【設備導入に要した経費】÷【見えない損失料の合計(年額)】から、回収見込み年数を算出しています。

採択企業一覧

■ R7年度採択企業

企業名	テーマ
株式会社ホクガン	冷凍保管解凍後に出荷商品賞味期限ラベルを自動印字貼付するロボットの導入
有限会社沖縄ペットケア	新型ハンディターミナル (HT) への切替えと受発注システムの自動化による業務効率化
拓南製作所株式会社	溶融亜鉛めっき加工業務フローの効率化
沖縄製粉株式会社	ミックス粉出荷搬送・パレタイズ工程の効率化及び迅速化の為にロボット導入
琉球物流株式会社	店別・カテゴリ別ピース仕分けシステムの導入
株式会社琉球通運航空	AI-OCRとバーコード読み取りを組み合わせた航空貨物の配送業務効率化
株式会社野嵩商会	やえせミートセンターへのデジタル管理システムの導入

■ R6年度採択企業

企業名	テーマ
株式会社あんしん	計量カートピッキングシステムの導入によるバラピッキング精度と生産性の向上
有限会社當山商事	販売管理システムの買掛管理・在庫管理機能不足による、ハンディターミナルと連携した新販売管理システムの導入
沖縄製粉株式会社	沖縄製粉(株)アクアクララ事業部の倉庫内物流の効率化・迅速化のための人協働ロボットの導入
琉球海運株式会社	琉球ロジスティクスセンター (RLC) 天然水積み替え作業効率化計画
株式会社沖縄急送	菓子仕分け作業における仕分けコンベア新規導入による作業効率化

■ R5年度採択企業

企業名	テーマ
株式会社野嵩商会	青果物流センターデジタル管理システム
株式会社湧川商会	重量検品カート導入による課題解決
株式会社ホクガン	アイスクリーム仕分け作業自動判別システム導入作業効率化
琉球海運株式会社	船積申込のWEB化と情報共有プラットフォームの構築
琉球通運株式会社	コンテナ動静管理システムの位置情報を活用したトレーサビリティ
琉球物流株式会社	物流サプライチェーンDXプラットフォーム構築事業
タイガー産業株式会社	販売管理システム再構築システム導入
株式会社MIZUTOMI	サプライ&ロジスティクスの統合管理
琉球海運株式会社	琉球ロジスティクスセンター (RLC) ピッキング作業効率化計画
マルエー物流株式会社	運転手及び運行管理者の作業効率向上への取り組みとして

【令和7年度】 沖縄物流デジタル技術活用推進事業 事例集